

令和4年12月31日

統計トピックスNo. 134

## 「<sup>う</sup>卯年生まれ」と「新成人」の人口

— 令和5年 新年にちなんで —

(「人口推計」から)

# <sup>う</sup>卯年生まれは997万人

# 新成人は341万人

(18歳は112万人、19歳は113万人、20歳は117万人)

総務省統計局では、新年を迎えるに当たり、令和5年1月1日現在における「<sup>う</sup>卯年生まれ」の人口と「新成人」の人口を推計しました。

### 要 約

#### I <sup>う</sup>卯年生まれの人口は997万人

- 男性は485万人、女性は513万人
- 昭和50年生まれが最も多い
- 十二支の中では10番目に多い

#### II 新成人人口は341万人

- 民法の一部を改正する法律の施行に伴う経過措置により、18歳（平成16年生まれ）、19歳（平成15年生まれ）及び20歳（平成14年生まれ）が令和5年1月1日現在の新成人
- 新成人人口は341万人で、うち18歳は112万人、19歳は113万人、20歳は117万人
- いずれの年齢も総人口に占める割合が1%を下回る

# I 卯年生まれの人口は997万人

## 男性は485万人、女性は513万人

令和5年1月1日現在における卯年生まれの人口は997万人で、総人口1億2477万人（男性6065万人、女性6412万人）に占める割合は8.0%となっています。

男女別にみると、男性は485万人、女性は513万人で、女性が男性より28万人多くなっています。 (表1、表2)

## 昭和50年生まれが最も多い

卯年生まれの人口を出生年別にみると、昭和50年生まれ（令和5年に48歳になる人）が186万人と最も多く、次いで昭和26年生まれ（同72歳になる人）が171万人、昭和38年生まれ（同60歳になる人）が157万人、昭和62年生まれ（同36歳になる人）が136万人、平成11年生まれ（同24歳になる人）が124万人、平成23年生まれ（同12歳になる人）が104万人などとなっています。 (図2、表2)

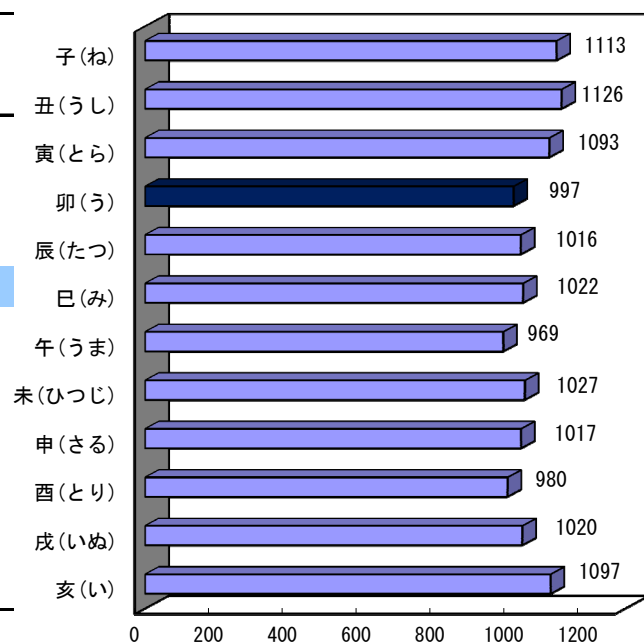
## 十二支の中では10番目に多い

総人口を十二支別にみると、丑年生まれが1126万人で最も多く、子年（1113万人）、亥年（1097万人）と続いており、卯年生まれは10番目となっています。 (表1、図1)

表1 十二支別人口

十二支	人口 (万人)	総人口に 占める割合 (%)	人口 順位
総数	12477	100.0	—
子(ね)	1113	8.9	2
丑(うし)	1126	9.0	1
寅(とら)	1093	8.8	4
卯(う)	997	8.0	10
辰(たつ)	1016	8.1	9
巳(み)	1022	8.2	6
午(うま)	969	7.8	12
未(ひつじ)	1027	8.2	5
申(さる)	1017	8.1	8
酉(とり)	980	7.9	11
戌(いぬ)	1020	8.2	7
亥(い)	1097	8.8	3

図1 十二支別人口



(万人)

図2 男女、出生年別<sup>う</sup>卯年生まれの人口

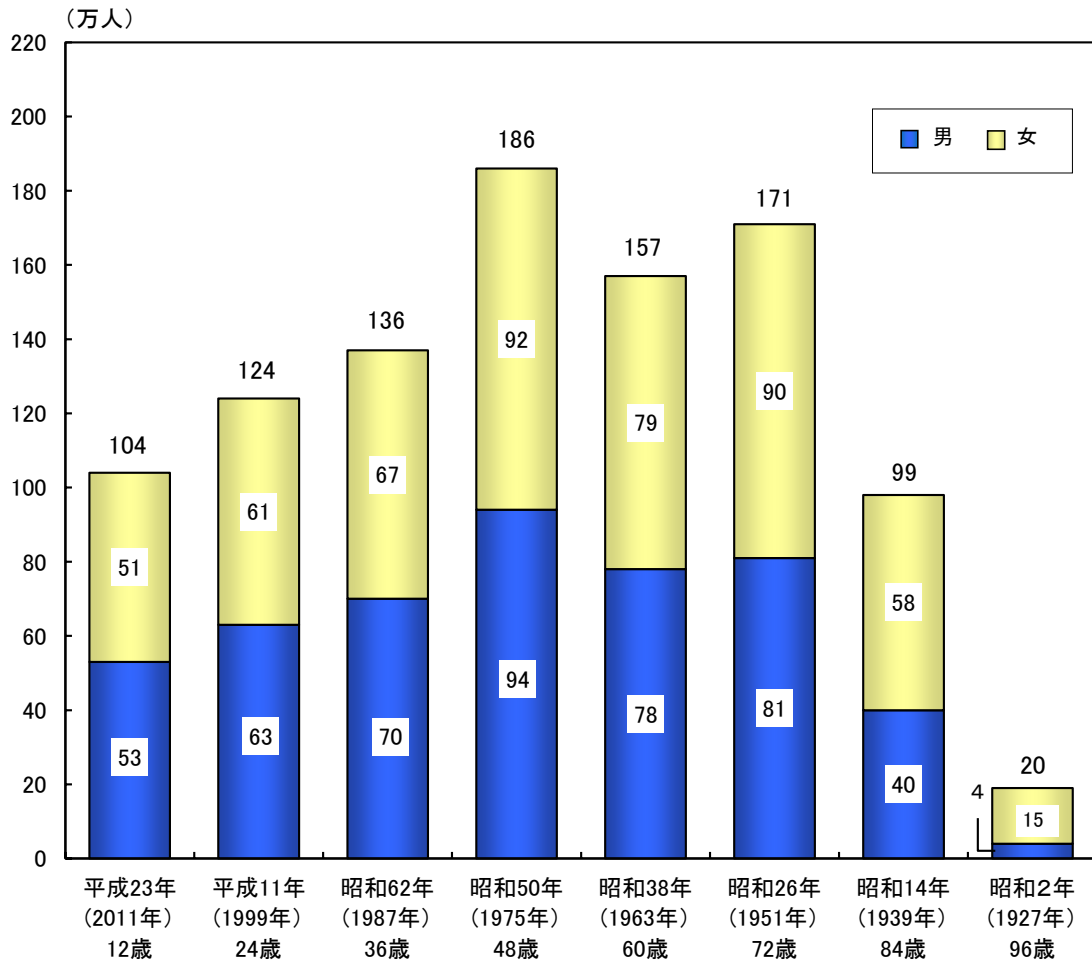


表2 男女、出生年別<sup>う</sup>卯年生まれの人口

生まれた年・年齢			男女計 (万人)	総数に占める割合 (%)	男 (万人)	総数に占める割合 (%)	女 (万人)	総数に占める割合 (%)
総	数	—	997	100.0	485	100.0	513	100.0
平成23年	(2011年)	12歳	104	10.5	53	11.0	51	10.0
平成11年	(1999年)	24歳	124	12.4	63	13.1	61	11.8
昭和62年	(1987年)	36歳	136	13.7	70	14.3	67	13.0
昭和50年	(1975年)	48歳	186	18.6	94	19.4	92	17.9
昭和38年	(1963年)	60歳	157	15.8	78	16.2	79	15.4
昭和26年	(1951年)	72歳	171	17.2	81	16.8	90	17.6
昭和14年	(1939年)	84歳	99	9.9	40	8.3	58	11.4
昭和2年	(1927年)	96歳	20	2.0	4	0.9	15	2.9

- \* 数値は万人単位に四捨五入してあるので、内訳の合計は必ずしも総数に一致しない。
- \* 割合は表章単位未満を含んだ数値から算出している。
- \* 図及び表中の年齢は、令和5年に誕生日を迎えた時の年齢
- \* 十二支別人口は、12月末までのデータにより推計した1月1日現在人口のため、令和5年生まれの卯年の人は含まれない。

## Ⅱ 新成人人口は341万人

令和5年1月1日現在の新成人人口は、18歳(平成16年生まれ)、19歳(平成15年生まれ)、20歳(平成14年生まれ)で341万人うち18歳は112万人、19歳は113万人、20歳は117万人

令和4年4月1日、成年年齢を18歳に引き下げることを内容とする、民法の一部を改正する法律(平成30年法律第59号。以下「改正法」という。)が施行され、経過措置により、施行日時点で18歳以上20歳未満の者も同日に成年に達することとされました。このため、この1年間(令和4年1月～12月)に新たに成人に達した人口(令和5年1月1日現在18歳、19歳及び20歳の人口)は341万人となり、このうち、18歳が112万人で、前年に比べ2万人減、19歳が113万人で、前年に比べ5万人減、20歳が117万人で、前年に比べ6万人減となっています。

各年齢を男女別にみると、18歳の男性は57万人、女性は54万人で、男性が女性より3万人多く、女性100人に対する男性の数(以下、「人口性比」という。)は105.6、19歳の男性は58万人、女性は55万人で、男性が女性より3万人多く、人口性比は105.8、20歳の男性は60万人、女性は57万人で、男性が女性より3万人多く、人口性比は105.6となっています。(表3)

表3 新成人人口

区分		新成人		
		うち18歳	うち19歳	うち20歳
令和5年(2023年)				
人口(万人)	男女計	341	112	113
	男	175	57	58
	女	166	54	55
総人口に占める割合(%)	男女計	2.73	0.89	0.90
人口性比		105.6	105.8	105.6
令和4年(2022年)		(参考)	(参考)	
人口(万人)	男女計	-	114	118
	男	-	59	61
	女	-	56	58
総人口に占める割合(%)	男女計	-	0.91	0.94
人口性比		-	105.8	105.5

### いずれの年齢も総人口に占める割合が1%を下回る

新成人人口について、この推計を開始した昭和43年からの推移をみると、第1次ベビーブーム(昭和22年～24年)世代の昭和24年生まれの人が成人に達した45年が246万人(総人口に占める割合は2.40%)で最も多くなった後、減少に転じ、53年には152万人となりました。その後、昭和50年代後半から再び増加傾向を続け、第2次ベビーブーム(昭和46年～49年)世代の人が成人に達した時に200万人台(最多は平成6年207万人)となった後、平成7年に再び減少に転じて以降は減少傾向を続けています。

なお、令和5年については、改正法施行の経過措置に伴い、18歳、19歳及び20歳が対象となり341万人となっています。

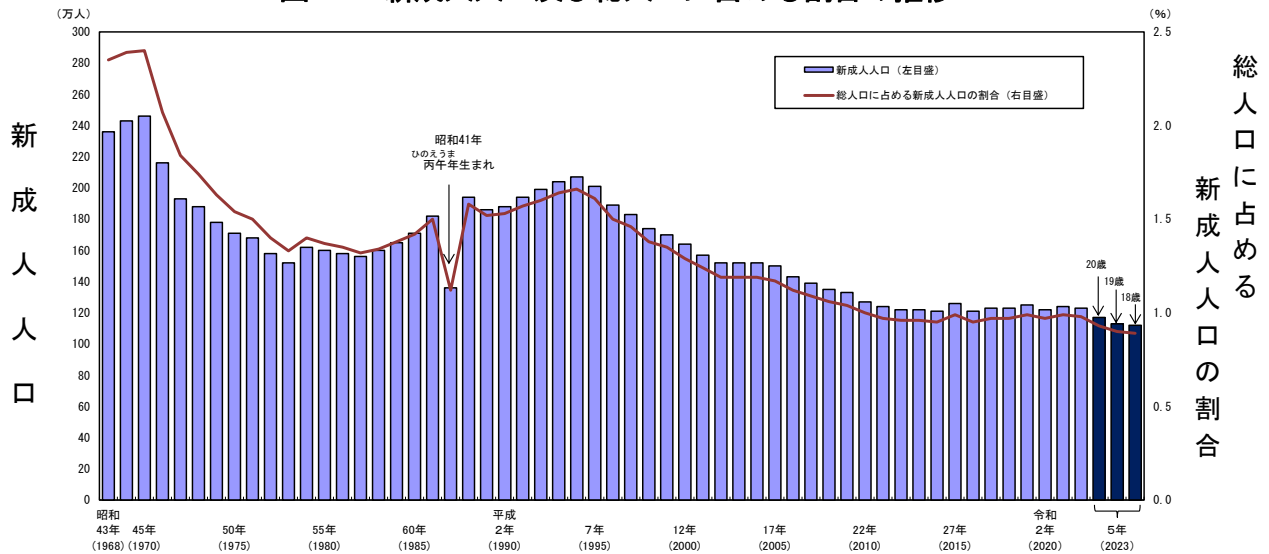
また、総人口に占める割合は、新成人人口全体では2.73%ですが、18歳が0.89%（前年に比べ0.02ポイント低下）、19歳が0.90%（同0.04ポイント低下）、20歳が0.93%（同0.05ポイント低下）となり、いずれの年齢の新成人も1%を下回っています。

（表3、表4、図3）

表4 新成人人口の推移

年次（西暦）	新成人人口 （万人）			総人口に 占める 割合（%）	人口性比	年次（西暦）	新成人人口 （万人）			総人口に 占める 割合（%）	人口性比
	男女計	男	女				男女計	男	女		
昭和43年（1968）	236	119	117	2.35	101.6	平成10年（1998）	174	89	85	1.38	105.0
44（1969）	243	123	121	2.39	101.9	11（1999）	170	87	83	1.35	105.2
45（1970）	246	124	123	2.40	101.0	12（2000）	164	84	80	1.29	105.4
46（1971）	216	110	106	2.07	103.9	13（2001）	157	81	77	1.24	105.3
47（1972）	193	98	96	1.84	102.0	14（2002）	152	78	74	1.19	104.7
48（1973）	188	94	94	1.74	100.8	15（2003）	152	77	74	1.19	104.7
49（1974）	178	89	89	1.63	100.6	16（2004）	152	78	74	1.19	104.7
50（1975）	171	87	84	1.54	103.6	17（2005）	150	77	73	1.17	104.9
51（1976）	168	86	83	1.50	103.7	18（2006）	143	73	70	1.12	105.0
52（1977）	158	81	77	1.40	104.5	19（2007）	139	72	67	1.09	106.4
53（1978）	152	77	75	1.33	102.8	20（2008）	135	69	66	1.06	105.2
54（1979）	162	82	80	1.40	103.3	21（2009）	133	68	65	1.04	104.9
55（1980）	160	81	78	1.37	103.9	22（2010）	127	65	62	1.00	104.7
56（1981）	158	81	78	1.35	104.3	23（2011）	124	63	61	0.97	104.2
57（1982）	156	80	76	1.32	104.5	24（2012）	122	62	60	0.96	104.9
58（1983）	160	81	78	1.34	104.2	25（2013）	122	63	59	0.96	105.4
59（1984）	165	84	81	1.38	104.3	26（2014）	121	62	59	0.95	105.1
60（1985）	171	87	83	1.42	104.8	27（2015）	126	65	61	0.99	105.5
61（1986）	182	93	89	1.50	104.2	28（2016）	121	62	59	0.95	105.1
62（1987）	136	70	66	1.12	105.7	29（2017）	123	63	60	0.97	105.8
63（1988）	194	99	95	1.58	103.9	30（2018）	123	63	60	0.97	105.5
64・平成元年（1989）	186	96	91	1.52	105.3	31・令和元年（2019）	125	64	61	0.99	105.5
2（1990）	188	97	92	1.53	105.5	2（2020）	122	63	59	0.97	105.8
3（1991）	194	99	94	1.57	105.4	3（2021）	124	64	60	0.99	105.6
4（1992）	199	101	97	1.60	104.2	4（2022）	123	63	60	0.98	104.4
5（1993）	204	104	99	1.64	105.0	5（2023）	341	175	166	2.73	105.6
6（1994）	207	106	101	1.66	105.0	うち 20歳	117	60	57	0.93	105.6
7（1995）	201	103	98	1.61	105.6	うち 19歳	113	58	55	0.90	105.8
8（1996）	189	97	92	1.50	105.3	うち 18歳	112	57	54	0.89	105.6
9（1997）	183	94	89	1.46	104.7						

図3 新成人人口及び総人口に占める割合の推移



- \* 「人口推計」（各年1月1日現在）
- \* 数値は万人単位に四捨五入してあるので、内訳の合計は必ずしも総数に一致しない。
- \* 割合は表章単位未満を含んだ数値から算出している。
- \* 令和4年までは20歳の人口及び割合
- \* 令和4年は、2021年10月1日現在の各歳人口及び2022年1月1日現在人口の確定値から新たに推計した20歳の人口及び割合
- \* 令和5年については、改正法施行の経過措置に伴い、18歳、19歳及び20歳の人口を各歳別に並べている。

..... 利用と問合せについて .....

- ◆ 「人口推計」の詳しい結果を御覧になる場合は、次の URL を参照ください。  
<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/index.html>

人口推計

検索

- ◆ このトピックスは、次の URL から御覧になれます。  
<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/topics/topi1340.html>
- ◆ このトピックスに掲載されている解説文、図等の情報を引用・転載する場合には、出典の表記をお願いします。  
(例) 「人口推計」(総務省統計局)

【問合せ先】



総務省統計局 統計調査部 国勢統計課 人口推計係

〒162-8668 東京都新宿区若松町 19 番 1 号

TEL : 03 (5273) 1009

Eメール : c-suikei@soumu. go. jp